

モバイル健康管理サービスの評価に関する研究

丁, 一

<https://hdl.handle.net/2324/1959136>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (芸術工学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏名	丁 一		
論文名	モバイル健康管理サービスの評価に関する研究		
論文調査委員	主査	九州大学	教授 都甲 康至
	副査	九州大学	教授 清須美 匡洋
	副査	九州大学	准教授 田村 良一

論文審査の結果の要旨

本研究は、先行研究によって既に顕在化が指摘されている若年層の健康問題と、彼らの9割以上が使用しているスマートフォンに搭載された健康管理サービス（Mobile Healthcare サービス：以下、MH サービス）との関係に着目し、ユーザー視点によるMHサービスの評価指標の構築を目指したものである。この背景にはMHサービスを評価するための汎用的な指標がデザイン学分野において未だ確立されていないことがあげられている。博士（芸術工学）の学位申請のために提出された本論文はこの課題解決のために、若年層ユーザーの健康管理ニーズに基づいたMHサービスの評価指標を、欧米の文献調査、ユーザーの面接調査と質問紙調査の因子分析結果などから作成し、日本の既存サービスへの適用による検証と考察を通じて提案することを目的としたものである。

MHサービスはハードウェアとしてのデバイスと、ソフトウェアとしてのアプリケーション（以下、アプリ）によって構成された諸機能の複合体であるが、本論文ではユーザー視点の観点から、ユーザーが接するアプリの表示機能によって提供されるコンテンツに焦点をあてて評価指標の作成が行なわれている。第1章では欧米の先行研究（10編）の中から、MHサービスの受容性向上に関わる機能に関する33項目の提言を抽出し、それをKJ法を用いて7つの分野に大別している。先行研究調査から得られた項目の内容をさらに充実させるために、第2章では日本在住の若年層18名（18歳以上30歳まで）に対してモバイル健康管理サービスに関する意識調査（面接調査）を行い、その結果から「サービスの受容性に影響を及ぼす機能」に関する項目を抽出している。さらに第3章では日本在住の若年層198名に対して実施した若年層の健康管理に関する意識調査（質問紙調査とその因子分析）の結果から、若年層の健康管理ニーズを支援する領域（健康管理領域）として9領域・36項目を抽出している。その後第4章では各章から得られた結論についてユーザー視点の観点から総合的に考察し、最終的に健康管理支援領域評価指標と健康管理支援コンテンツ評価指標の2つの指標を導出している。前者は当該MHサービスが若年層ユーザーが求める健康管理領域（9領域・36項目）の中でどの領域を支援しているか否かを評価する指標で、後者は当該サービスの各領域においてどのような健康管理を支援するコンテンツ（9分野・23項目）を有しているか否かを評価する指標である。第5章では導出した2つの評価指標の有用性を評価するために、まずユーザーが入手可能な既存のMHサービス（24種類）を予め設定した条件により選定し、各サービスが提供しているコンテンツの中から健康管理に関連する項目を抽出している。次に抽出した項目に対してサービス毎に評価指標を用いて分析し、その結果から既存のMHサービスの支援領域と支援コンテンツの実態について明らかにした後、評価指標の有用性などについて考察している。そして本論文の結論として、第6章では本研究で得られた2つの評価指標とその活用例、研究過程

で得られた既存の MH サービスの特性に関する知見、デザイン学における意義などについて総括し、最後に今後の研究課題について述べている。

本研究は総じて入念な若年層のユーザー調査分析により、これまで確立されていなかったスマートフォンなどに搭載された健康管理サービスに関する評価指標をユーザーの観点で初めて提示したことにおいて意義があるといえる。また本論文で提示された評価指標の活用例は、類似のサービスを改善あるいは創出しようとするデザイナーや関係者などにとって有用なものであることを示唆している。これらのことから本論文は、研究の着眼点と独自性ととも、得られた知見はデザイン学や芸術工学研究を含め社会に寄与できるものと評価できる。したがって本審査委員会は、提出された本論文を博士（芸術工学）の学位に値するものと判断した。